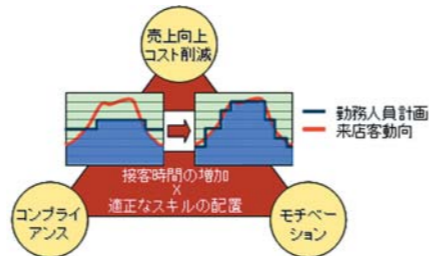


TOPICS

01 「WINWORKS One」の取り扱いを開始 ～「人」に関するマネジメントビジネスを展開～

当社はこのほどウィンワークス株式会社と販売代理店契約を締結し、10月16日から勤務計画・管理システム「WINWORKS One」の取り扱いを開始しました。「WINWORKS One」は勤務シフトの自動作成によるサービス品質・コスト削減効果に加え、従業員満足度の向上にもつながるソリューションとして注目を集めています。当社は今後、大規模小売店・ホテルなどへの販売を推進するほか、製造業分野向けソリューションによる新市場の開拓も視野に入れ「人」に関するマネジメントビジネスという新分野での事業展開を図っていきます。



02 GRANDITコンソーシアムに加盟 ～完全Web-ERP「GRANDIT」の取り扱いを開始～

当社はこのほど、インフォバック株式会社が運営する「GRANDITコンソーシアム」(以下:コンソーシアム)に加盟し、10月6日より完全Web-ERP「GRANDIT」の取り扱いを開始しました。「GRANDIT」は、コンソーシアム方式で開発された中堅企業向けERPパッケージで、日本企業に適した構成と、インターネット時代に対応する完全Web対応の点が高く評価され、急成長を遂げています。当社は、今般のコンソーシアムへの加盟により、基幹業務すべてを網羅した中堅企業向けERPシステムの提供体制を整えるとともに、技術力、生産管理/SCM/MESソリューションなどのノウハウを活かし、お客さま視点のご提案を行いながら「GRANDIT」の販売を推進していきます。



03 販売管理システム「MetaForce(メタフォース)」新バージョンを発売 ～内部統制機能追加、約10%の業務効率向上と低コスト・短期間での導入も実現～

当社は11月11日、販売管理システム「MetaForce(メタフォース)」の新バージョンを発売しました。MetaForceは2002年の発売以来、完全Web対応などの機能が評価され、電設資材関連の流通・卸売業各社で最も多く導入されています。今回のバージョンアップでは、与信管理など内部統制対応、仕分け・購買業務機能の充実による約10%の業務効率向上、カスタマイズでご要望の多い機能の標準パッケージ化による低コスト・短期間導入を実現しました。今後、リプレースや他商材を扱う流通・卸売業への拡販を進めます。また、SaaSとしての提供も検討していく方針です。また、コンサルティングから保守・運用までサポートできる技術力とノウハウを活かし、来年1月開業の新データセンターでのホスティングサービスなどIT資産の保有形態に応じた運用サービスも提供することで、お客さまの経営課題の解決・経営基盤の強化に貢献します。



あいえず☆うらばなし 新データセンター開業準備進行中!(後編)「環境配慮のポイント」

いよいよ新データセンター運用開始まで1ヶ月余り。名称も「大阪中央データセンター」に決定し、現在、急ピッチでオープンにむけた準備が進んでいる新データセンターは、近年クローズアップされている環境保全の課題に対応し、設備・管理方法にグリーンITの視点を取り入れ、CO₂排出量の削減に貢献しています。具体的なポイントは次のとおりです。

- ・排熱効率を高めた内部設計とラック環境システムによる温湿度管理
- ・環境配慮型照明器具「WEエコ(ダブルエコ)」の導入と人感センサによる照明制御
- ・Egenera BladeFrameなど省エネ型サーバの導入

パナソニック電工ISは、最新鋭のエコシステムを擁し、免震構造など安全性も兼ね備えたデータセンターで、約50年にわたる歴史の中で培った技術とノウハウを活かした事業を展開していきます。



完成間近のデータセンター内部



「WEエコ」と人感センサによる照明制御で省エネを実現

日経優良企業ランキングで上場企業2303社中総合125位にランクインしました!

10月18日の日本経済新聞(朝刊)で「2008年度日経優良企業ランキング」が発表されました。

当社のランキング結果

総合 **125位** (昨年189位) 収益性:121位 安全性:125位 成長力:168位
(項目別では、4項目のうち「規模」を除く全ての項目で上位にランクインしました)

※このランキングは日本経済新聞デジタルメディアが開発したNEEDS-CASMA(多変量解析法による企業評価システム)によるものです。

発行元

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社
総務部 広報・IRグループ

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローチタワー16F
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 <http://panasonic-denko.co.jp/>

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

IS CLOSE UP

パナソニック電工インフォメーションシステムズ
アイエスクローズアップ

2008.11
Vol.4

Top INTERVIEW

ユーザー起点のサービス。

マルチベンダ対応はパナソニック電工インフォメーションシステムズのシステム運用の大きな特徴です。

「メーカーにとらわれず、お客さまそれぞれの状況にあわせた最適な機器構成を提案する。」

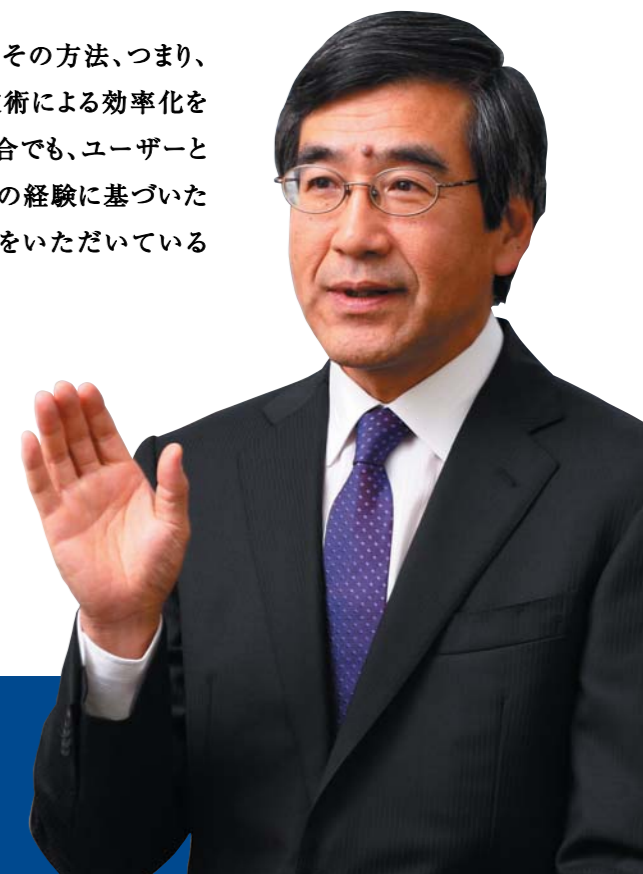
マルチベンダ対応を言葉にするとこれだけですが、その提案には、私たち自身がシステム機器を扱い、運用するなかで培ってきた経験とノウハウが活かされています。

お客さまの大切なシステムやデータをお預かりするうえで、安定的な運用は当然のことであっても、それを守らんがために既存のインフラに安住してはさらなるレベルアップは見込めません。処理能力や障害対応能力をさらに高めるため、私たちは、パナソニック電工の受発注システムなど基幹システムを構築・運用する過程において、あらゆる製品や新しい技術に挑み、単一ベンダに依存しては乗り越えられない壁を越えてきました。これは、技術革新と安定生産のサイクルで「ものづくり」を行う現場にルーツを持ち、現場密着で力をつけてきた私たちならではの取り組みです。つまり、マルチベンダ対応とは、私たちが攻めの姿勢でインフラ整備を行ってきた証なのです。

このように、私たちはシステムインテグレータとしての一面だけでなく、システム機器を利用するユーザーとしての一面も持っています。そして、ユーザー側の視点で行うアドバイスやサービスは、システム機器導入の際にお客さまが感じる不安の解消に大きな役目を果たしています。

たとえば、現場と企画部門が効率化という思想の点では一致していても、その方法、つまり、安定的に稼働しているシステム機器を変えてでも革新的なシステムや技術による効率化をめざすのか、については意見が分かれることもあるでしょう。このような場合でも、ユーザーとして、あらゆるベンダのシステム機器に精通し、現場に強い私たちなら、自らの経験に基づいた解決方法の提案が可能です。私たちがお客さまから大きな評価と信頼をいただいているのは、こうした点だと思います。

そして、このような評価は、愚直に日々の運用を行いながら未来につながるチャレンジを続けている社員の奮闘があればこそです。私たちが今日積み上げた経験、技術やノウハウによるユーザー起点のサービスは、お客さまの明日に、そして「将来ありたい姿」の実現に、きっと役立てていただけるかと確信しています。



パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

取締役社長 河村 雄良
Takeyoshi Kawamura

Close Up Now

ユーザー経験を活かして現場をサポート!

～パナソニック電工インフォメーションシステムズのブレードサーバ導入・運用支援ソリューション～
 運用効率の向上はもちろんのこと、電力消費量やCO₂排出量削減などといったグリーンITの観点からも近年注目を集めるブレードサーバ。一方、どのブレードサーバがいいのか、本当に運用効率が上がるのか・・・と導入に二の足を踏んでいる企業が多いのも事実です。確かに、現場の運用スタッフにとって稼働中のサーバからの乗り換えは「大冒険」。カタログスペックだけでは分からない安定性や性能などにも納得できる情報が必要です。パナソニック電工インフォメーションシステムズ(パナソニック電工IS)は、自らがユーザーとしてブレードサーバ「Egenera® BladeFrame®」を使用してきた実績を基に、ユーザー視点でお客さまにとって最適なブレードサーバの運用・導入ソリューションをご提案しています。

システム運用で、このような悩みはありませんか?

- CASE 1** 部署ごとにサーバを運用しており、運用基準もまちまち。運用と開発の役割分担ができない。
- CASE 2** 最近数年でサーバが激増。置き場所と電力消費量の問題に頭を悩ませている。
- CASE 3** 稼働中のサーバからはイメージをコピーできず、新しいサーバが稼働するたびにOSからインストールし直すなど、運用効率が悪い。



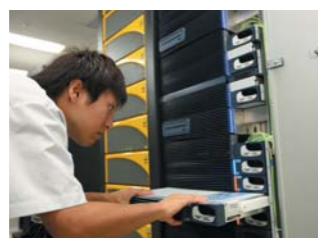
**パナソニック電工ISは
自らの運用経験を基に
お客さまにとって最適な
ソリューションを提案!**

パナソニック電工ISが自らの運用経験からお勧めするポイントは

Point.1 省スペース・省エネルギーによるグリーンIT化+コスト削減を実現!

インターネットの普及とともに、パナソニック電工ISが運用するサーバの台数は激増。増加ペースが年300台を上回る年もあり、一気に1000台を突破。近い将来、設置スペースに限界がくることは目に見えており、サーバ統合は喫緊の課題でした。2004年からサーバ選定を開始し、通常のラックマウント型からブレードサーバまで比較検討。メーカーも国内ブランドから海外の無名ベンチャーまで幅広く候補にあげたうえで、運用に欠かせない約50項目についてテストを行いました。

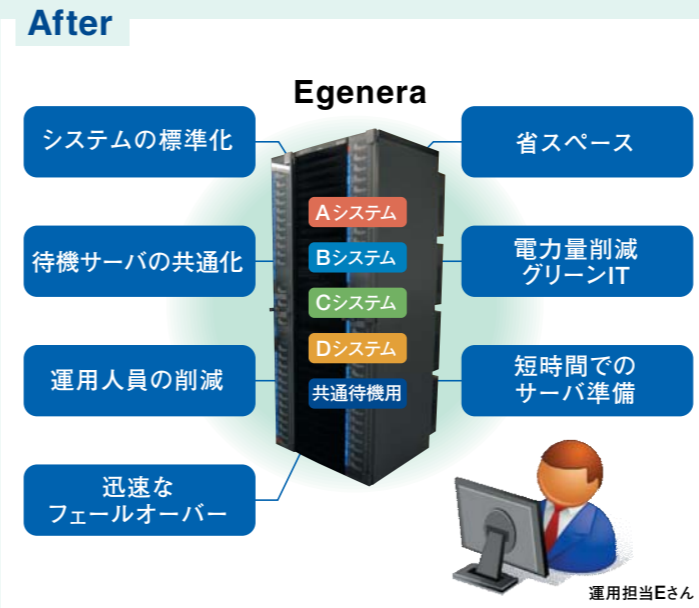
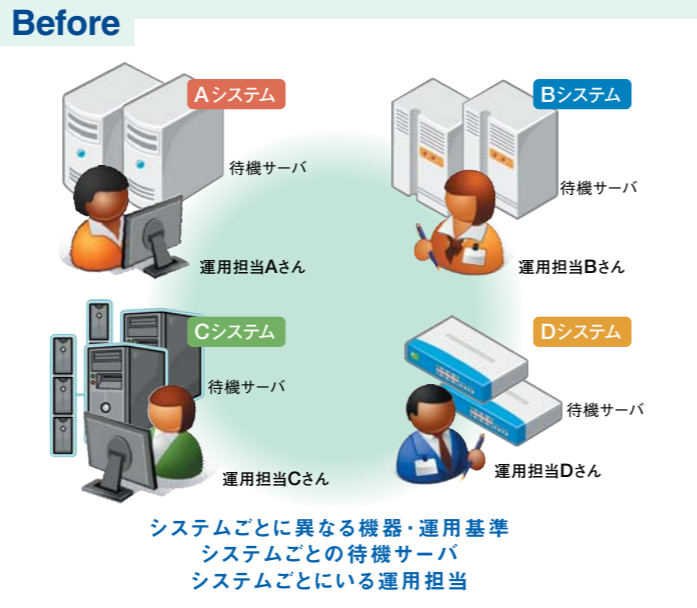
その中で選んだのが、Egenera BladeFrame。単に機能を集約したブレードサーバとは違い、BladeFrameは仮想化によるサーバ統合で省スペース・省エネのみならず、余分なサーバ、運用工数の大幅な削減が可能になりました。



BladeFrameのラッキング作業

Egenera BladeFrameによるサーバ統合で運用負担が軽減!

Egenera BladeFrameとは
 イージェネラ株式会社の開発したブレードサーバ。卓越したPANアーキテクチャにより、物理サーバを仮想サーバのように扱うことを可能としている。ブレードサーバの枠を超えたブレードサーバとも称されている。



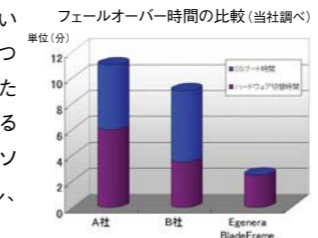
Point.2 開発に専念できる環境づくりとインフラ標準化を実現!

一方、当時のパナソニック電工ISでは、オープン系システムのサーバを各部署が保有し、開発担当者がハードウェアやネットワークなどのインフラまで選定していました。そのため、開発担当者は開発に専念できず、運用担当者は部ごとに異なる多種類のインフラを運用しなければならない状態でした。そこで、オープン系のよさを失わずに開発と運用の役割分担を明確化するため、BladeFrameによる全社レベルでの統合運用、各種システムの一元管理に取り組みました。これにより、開発に専念できる環境が整っただけでなく、BladeFrameを軸にしたアプリケーション設計が進み、さらなるインフラの標準化にも成功したのです。



Point.3 障害時の素早いフェールオーバー*、イメージコピー機能などで運用効率を大幅アップ!

Egenera BladeFrameが他社製品に比べ優れているのは障害時の復旧処理です。Egeneraの製品は障害発生時に自動的に予備機に切り替わり、復旧処理が開始され、数分でブレードの切り替えと再立ち上げが完了します。しかも、アプリケーションを含めてサーバの設定に変更があった場合でもフェールオーバー機能に影響しません。また、運用効率を大幅に向上させるもう一つの機能は、他社製品にはない稼働中のサーバからの流用作成(イメージコピー機能)。これにより、新しいサーバを入れるたびにOSからひとつひとつインストールしてセットアップするといった運用の負担がなくなりました。運用にあたるスタッフの数は限られていますが、パナソニック電工ISではこのような機能を活かし、効率的なシステム運用を行っています。



*フェールオーバー：サーバに障害が発生した場合に、代替サーバが処理やデータを引き継ぐ機能。

実際に運用しています!

Egenera BladeFrameのよさは、実際に運用するスタッフが求める柔軟性と安定性にあります。たとえば初期立ち上げのスピード、資源の自由な割り当て・解除、サーバ・アプリケーションの変更にも左右されないフェールオーバーなどです。運用を開始してから3年がたちますが、日々効果を実感しています。今後も、さらなる運用の効率化を追求していきたいと思っています。

IDCビジネス本部 サーバソリューション事業部 八木洋至

Egenera導入事例:UFJIS株式会社様

ユーザー視点のシステム・ソリューションがIT業界を変える。

2003年、アジアで初めてEgeneraを導入したUFJIS株式会社(以下UFJIS)。三菱UFJフィナンシャル・グループのシステム運用を担当する同社は、Egeneraのさらなる活用によって運用効率の最大化を図るため、パナソニック電工ISが自らの運用実績を基に提案した、仮想化を実現するストレージ「3PAR®」とEgeneraとの組み合わせソリューションを採用されました。今回は、UFJISの千貫(ちぬき) 素成ITプロデュース部長に導入の経緯などをうかがいました。

大きな信頼感につながるユーザーとしての実績。
 2003年にEgeneraを導入して以来、その優れた障害対策で運用トラブルが激減したほか、仮想化技術によってサーバ統合は非常にスピーディになりました。しかし、Egeneraをさらに活用するためには、ストレージ容量に縛られない柔軟性と使用効率の向上が必要だと考えていました。そんな時、同じEgeneraのユーザーとして情報交換をする間柄にあったパナソニック電工ISがEgeneraと3PARとを組み合わせた運用で実績があると聞き、早速同社の大阪IDCでデモを見せてもらいました。現場での実際の運用を見て安定性と性能を確認し、効果を確認したので、パナソニック電工ISからEgeneraと3PARの両方を導入することにしました。

パナソニック電工ISは「『新』への挑戦」の意味を理解している貴重な仲間。
 システム導入を決定する際のポイントは、実はカタログでわかる製品スペックではなく、運用の安定性と性能劣化の有無です。これは、その場のデモや数ヶ月の試用期間だけではわかりません。その点、パナソニック電工ISの提案は自社での運用実績に基づいており、信頼感は抜群です。

パナソニック電工ISは、新しい技術にチャレンジする貴重な仲間です。IT業界にユーザーの視点をもっと取り入れることで、ユーザー本位のサービス・ソリューションが生まれるよう、これからもともに歩んでいきたいと思っています。

【会社概要】
 UFJIS株式会社
 本社:〒103-0027
 東京都中央区日本橋1-7-17
 日本橋御幸ビル
 URL: <http://www.ufjis.com/>



ITプロデュース部長 千貫 素成様

※3PAR:3PAR社が開発した設計不要の仮想ストレージ装置。業界トップクラスのシークタイムも同時に実現。